

## 「ハッピーライド in 静岡プロジェクト」への参加について (討議事項)

### 討議事項の概要

静岡県は小学生のバス利用を促進し、将来のバス利用者の増加につなげるため、県内全ての小学生がバスに無料で乗車できる「静岡県小学生バス無料デー」を市町や乗合バス事業者等と連携して実施します。

既存バス路線の利用促進のため、“ぎゅっと”カーよしだについても本事業の対象とすることを検討しています。

実施主体	ハッピーライド in 静岡プロジェクト実行委員会 (令和6年4月24日設置) 構成員：国、県、市町、(一社)静岡県バス協会、乗合バス事業者 事務局：(一社)静岡県バス協会、県地域交通課
対象者	県内の全小学生 ※乗車時にリーフレットを運転手に提示すること
実施予定日	令和7年12月13日(土)～14日(日)の2日間
対象車両	“ぎゅっと”カーよしだ ※実施日は土日となるため、運行車両は1台を想定
議決について	① 公共交通協議会において、「ハッピーライド in 静岡プロジェクト」への参加について検討 ② 運賃協議会において、上記期間の運賃について協議を行い、運賃協議会の議決をもって承認

### 補足事項

地域公共交通協議会では「路線」「系統」「ダイヤ」「車両」という運送サービスの内容についての協議を行う場であるのに対し、「運賃」については運賃協議会にて協議されます。

しかしながら、地域公共交通協議会において、運賃について競争を制限しない範囲内で意見交換することまでが否定されているわけではありません。

地域公共交通協議会で発言された意見は参考意見として運賃協議会で報告したうえで、運賃の議決を行います。

バスに乗って、出かけよう。



# Happy Ride in Shizuoka Project

## ～2025小学生バス無料デーの実施～

ハッピーライドin静岡プロジェクト実行委員会  
(事務局：静岡県バス協会、県地域交通課)

## 背景と目的、目指す姿

### 背景

- ・少子高齢化、人口減少、モータリゼーションの普及による長期的な乗合バス利用者の減少
- ・バスドライバーの高齢化による運転手不足への危機感



### 目的

- ・小学生を中心とした地域住民のバス利用の促進
- ・地域の移動手段である路線バスを将来に渡り維持するため、社会全体で「乗って残す」意識を啓発
- ・皆でバスに乗り合うことによる環境負荷の低減



### 目指す姿

- ・マイカーから地域公共交通への転換（モビリティマネジメントの推進）
- ・バスが楽しい、（無料デーでなくても）バスに乗りたい小学生の増加
- ・子どもをバスに乗せたいと思う保護者の増加



バス利用頻度の増加



# 2024実施結果

## 概要

小学生のバス利用を促進し、バス利用者の増加につなげるため、  
**県内全ての小学生を対象にバス無料デーを実施した。**  
**（小学生を対象とした全県規模の実施は全国初）**

項目	内容
対象者	静岡県内の学校に通う小学生 524校 約173,000名 （国公立・私立小学校、特別支援学校、外国人学校の全児童）
実施日	令和6年12月7日（土）～8日（日）2日間
対象のバス	静岡県内を運行する路線バス・コミュニティバス （土日運休路線、高速道路走行路線等一部対象外の路線・区間あり）
主催	ハッピーライドin静岡プロジェクト実行委員会（令和6年4月24日設置） 構成員：国、県、市町、（一社）静岡県バス協会、乗合バス事業者 事務局：静岡県バス協会、県地域交通課
オブザーバー	静岡鉄道株式会社、静岡県地球温暖化防止活動推進センター

2

# 2024実施成果と課題

## 成果

- ◆無料デー当日のバス利用者は、実施の前週、翌週のいずれと比較しても増加（子どもの利用者は前週、翌週の約4倍）
- ◆バス無料デーに乗った小学生のうち、バスに乗った頻度が少ない（今までに3～5回以下）小学生が44%、1度もバスに乗ったことがない、または1～2回の乗車経験が極めて少ない小学生は15%を占めた
- ◆今度、「バス無料デー」があればバスに乗ってみたいという小学生が全学年で6割以上を占め、無料デーでなくても乗ってみたいという小学生が全学年で約8割を占めた
- ◆バスに乗った保護者等の8割以上が、バス無料デーに満足と回答、満足な理由として「子どもの経験になったから」との回答が最多
- ◆バスに乗らなかった保護者等についても、9割以上が次回は子どもを乗せたいと回答（資料：バス事業者アンケート、小学生、保護者等Webアンケート結果）

◆普段マイカー利用が多い小学生及びその保護者が、無料デーにバスを利用する等、バス利用の体験機会を提供することができた

◆バス利用の呼びかけや小学生アンケートの実施により、バスへの意識や関心を高めることができた

【県活性化協議会（R7.3.14）有識者意見より】

**将来に向けた更なる利用促進にも繋がる取組であり、効果検証しながら続けていくことが必要**

3

# 2024実施成果と課題

## 課題

- |   |  |
|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>◆小学生の約4割が無料デーを「知らなかった」と回答<br/>(回答者がいなかった小学校は更に認知度が低い可能性あり)</li> <li>◆情報入手経路は、小学生、保護者等とも<b>学校を通じて知った人が大半</b></li> <li>◆当日、リーフレットを忘れた人や無料デーを知らない人が多数存在</li> <li>◆バス運転士が不足している状況については、7割以上の保護者等が認知、<b>小学生の認知度は半数以下</b><br/><br/>(資料：バス事業者アンケート、小学生、保護者等Webアンケート結果)</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>◆学校から児童（保護者）への周知方法の工夫・改善や、学校以外の情報入手経路を強化する必要性</li> <li>◆無料デーの実施によるバス利用の意識、行動の変化の継続的な測定及び検証</li> </ul> |
|---|--|

【県活性化協議会（R7.3.14）有識者意見より】

**一過性のイベントで終わらせないために、持続可能なスキームの構築の必要性**

4

# 2025バス無料デーの新たな取組

## 内容

### 広報強化

- ◆無料デー特設サイトの開設
- ◆周知用掲示物（ポスター等）の作成
- ◆実行委員会構成員による一体的な広報の実施  
(一斉プレスリリースの実施、車内広告、子育て支援施設、自治会回覧板等での周知等)
- ◆バスの日と連動した無料デーの告知
- ◆大型商業施設等への広報協力依頼

### 実施体制

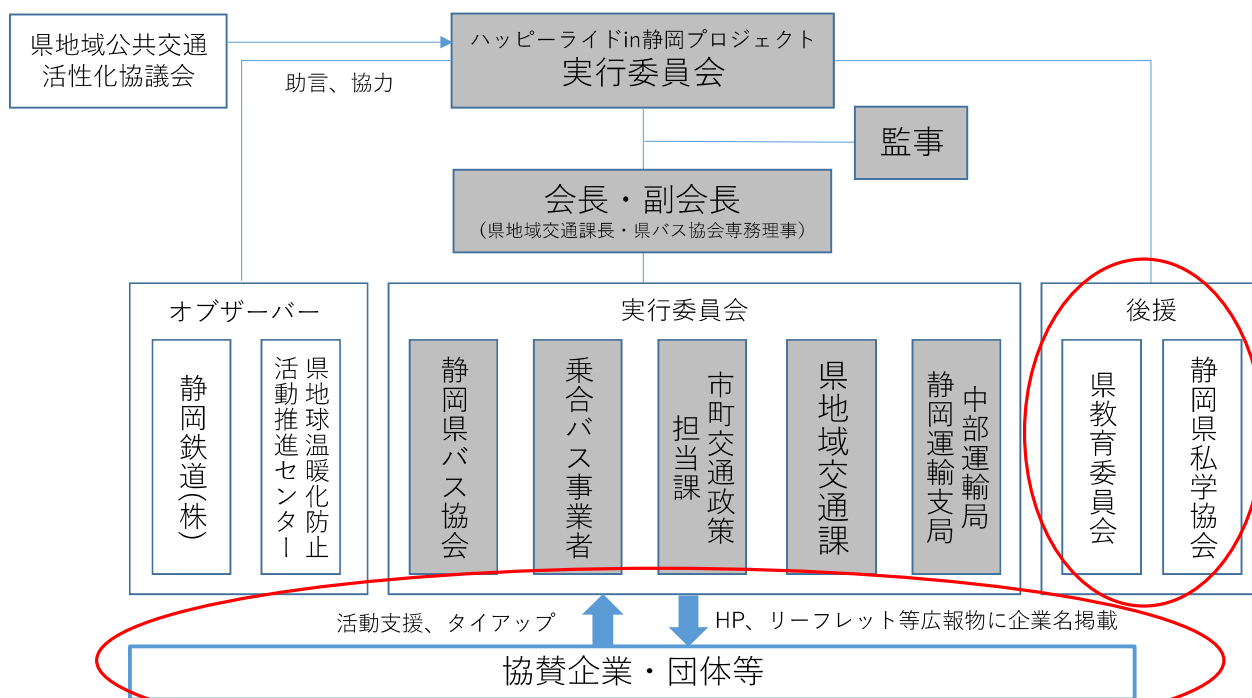
- ◆プロジェクトへの協賛企業・団体（スポンサー）の募集
- ◆教育委員会の後援名義取得

### 学校との連携強化

- ◆授業での活用を依頼  
(教材提供※～リーフレット配布～無料デー利用によるバス乗車実体験～WEBアンケート)
- ◆県校長会理事会での協力依頼  
※バスの乗り方やマナーを学べる動画を作成予定

5

# 2025バス無料デーの実施体制(組織図)



6

# 2025実施計画

項目	内容
対象者	静岡県内の学校に通う小学生 524校 約173,000名 (国公立・私立小学校、特別支援学校、外国人学校等の全児童) ※R6実績を仮置き
実施日	<b>令和7年12月13日(土)～14日(日) 2日間</b>
利用方法	リーフレットをバス運転士に提示
対象のバス	静岡県内を運行する路線バス・コミュニティバス (土日運休路線、高速道路走行路線等一部対象外の路線・区間あり)
主催	ハッピーライドin静岡プロジェクト実行委員会(令和6年4月24日設置) 構成員: 国、県、市町、(一社)静岡県バス協会、乗合バス事業者 事務局: 静岡県バス協会、県地域交通課
オブザーバー	静岡鉄道株式会社、静岡県地球温暖化防止活動推進センター
協賛企業・団体	<b>静鉄グループ、静岡ブルーレヴズ(株)、(一社)静岡県自動車会議所、 (一社)日本自動車販売協会連合会静岡県支部 ※随時募集中</b>
後援	県教育委員会、静岡県私学協会

7

# 実施スケジュール

月日	内容
5月12日	実行委員会（第1回）の開催、実施計画の決定
5月中旬	各学校長あて小学生バス無料デーへの協力依頼を発出 ※4/25県校長会理事会での説明済（県）
5月下旬～	市町地域交通会議等での説明（県）、運賃協議会での承認（市町）
6月～	実施路線の特定、タイアップイベント企画の募集
～8月下旬	周知用広告物の作成配布、特設サイト公開
<b><u>9月中旬</u></b>	<b><u>プレスリリース①（バスに日に合わせた一斉広報）</u></b>
<b><u>11月</u></b>	各学校経由で小学生に無料デリーフレットを送付 <b><u>プレスリリース②（直前の一斉広報）</u></b>
12月13～14日	小学生バス無料デーの実施、タイアップイベントの実施
～2月	利用者アンケート等のとりまとめ（効果検証）、翌年度実施検討

# 「静岡県小学生バス無料デー」実施結果の公表 ～子どもの利用は前週翌週の約4倍に～

(静岡県交通基盤部地域交通課)

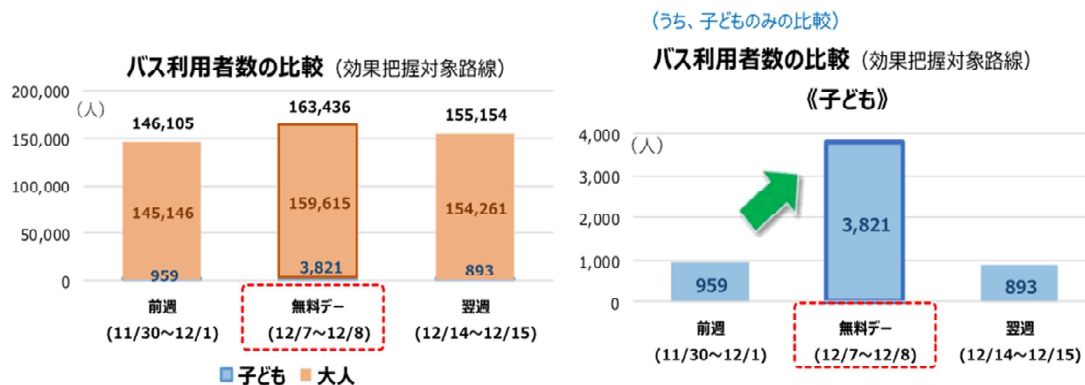
## 1 概要

- ・令和6年12月7日(土)～8日(日)の2日間、「乗って、残す。」をコンセプトに、県内の学校に通う全ての小学生を対象にバス無料デーを実施した
- ・子どものバス利用者数は、前週、翌週の約4倍となるなど、ふだんバスに乗車しない小学生がバスを利用する機会となった

## 2 主な実施結果

### (1) 利用者数

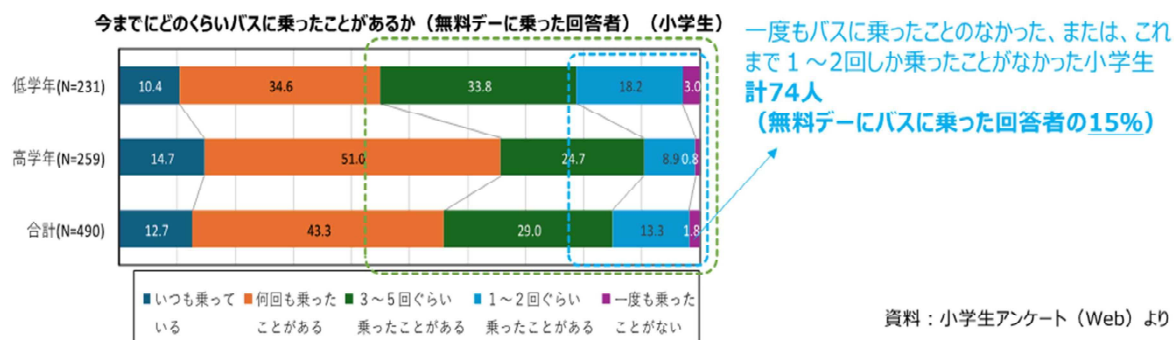
- ・バス事業者からの報告による無料デーのバス利用者は、実施の前週、翌週のいずれと比較しても増加
- ・特に子どもの増加が顕著で、前週、翌週の約4倍



### (2) 利用促進効果

- ・バス無料デーに乗った小学生のうち、バスに乗った頻度が少ない (今までに3～5回以下) 小学生が44%を占めた
- ・そのうち、1度もバスに乗ったことがない、または1～2回の乗車経験が極めて少ない小学生は15%だった
- ・以上の結果から、ふだんあまりバスを利用しない小学生に、バス利用を体験する機会を提供できたと考えられる

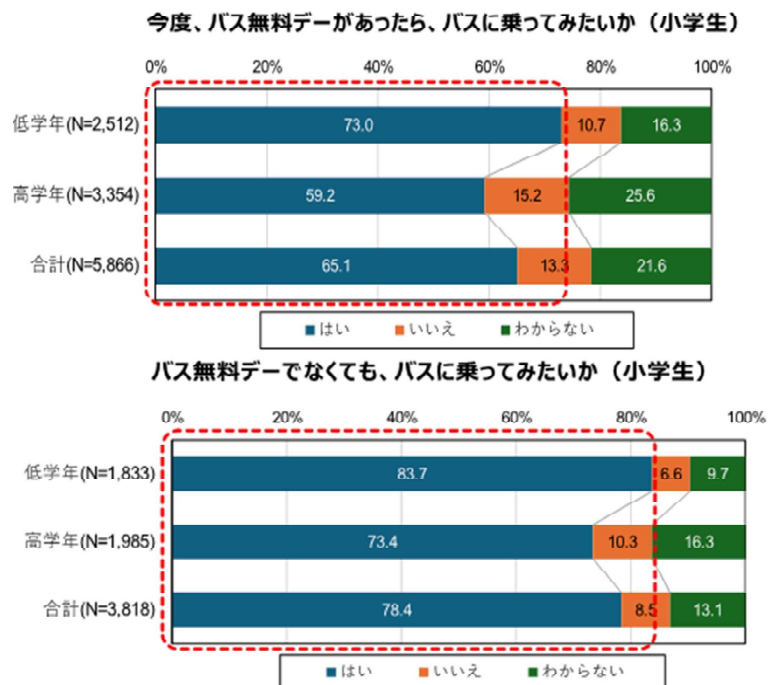




### (3) 利用意向・意識の変化

#### ①小学生

- ・ 今度、「バス無料デー」があればバスに乗ってみたいという小学生が全学年で6割以上を占めた
- ・ このうち、無料デーでなくても乗ってみたいという小学生が全学年で約8割を占めた
- ・ 以上の結果から、事前広報を含めバス無料デーが、小学生のバスに対する関心や利用意識の醸成に寄与したものと考えられる

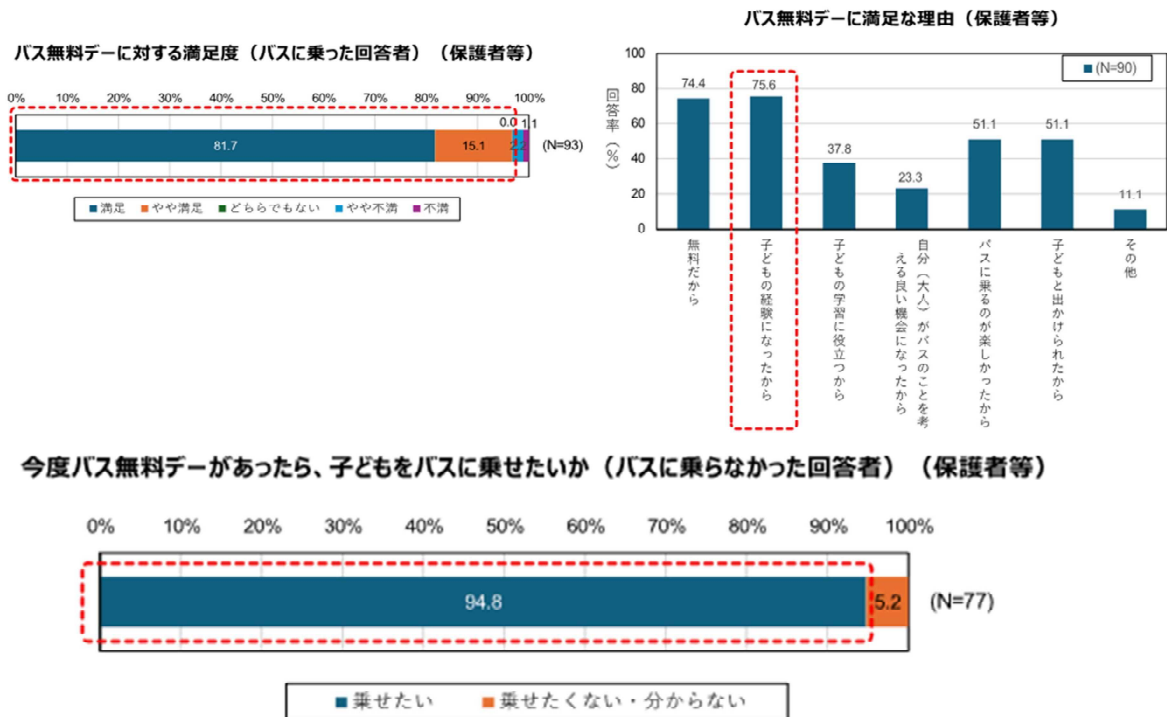


資料：小学生アンケート（Web）



## ②保護者等

- ・バス無料デーに（小学生と一緒に）バスに乗った保護者等の8割以上が、バス無料デーに満足と回答
- ・満足な理由として「子どもの経験になったから」との回答が最も多く、保護者もバス無料デーが、子どもがバスの乗車を体験するよい機会になると認識
- ・今回のバス無料デーにはバスに乗らなかった保護者等についても、9割以上が次回は子どもを乗せたいと回答
- ・以上の結果から、保護者もバス無料デーが子どもがバスの乗車を体験するよい機会になると認識していると考えられる



資料：保護者等アンケート（Web）

以上は、調査時点の結果であり、今後の行動変容につながるかどうかは継続した取組及び調査が必要

## 参考

### 【イベント概要】

#### 1 実施日

令和6年12月7日（土）～8日（日）

#### 2 対象者

静岡県内の学校に通う小学生（約173,000人）

#### 3 利用方法

運賃を支払う代わりにリーフレットをバス運転士に提示

#### 4 対象路線

静岡県内を運行する路線バス・静岡県内のコミュニティバス

（対象外路線 土日運休路線、高速道路を走行する路線、空港アクセス線など）

#### 5 主催

ハッピーライド in 静岡プロジェクト実行委員会

（構成団体）

国、県、市町、（一社）静岡県バス協会

しずてつジャストライン(株)、遠州鉄道(株)、(株)東海バス、伊豆箱根バス(株)、  
富士急静岡バス(株)、富士急シティバス(株)、富士急モビリティ(株)、富士急バス(株)、  
秋葉バスサービス(株)、山梨交通(株)、(株)大鉄アドバンス、日本平自動車（株）

#### 6 協力団体

静岡鉄道(株)、県地球温暖化防止活動推進センター、（一社）静岡県自動車会議所

ほか16団体

#### 7 特別協賛

静岡ブルーレヴズ(株)



【PR用ロゴマーク】